

平成28年第4回 名張市地域公共交通会議 事業推進部会 議事概要

日時 平成29年2月14日（火）

午後1時30分より

場所 名張市役所 庁議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

中平 恭之（近畿大学工業高等専門学校准教授）

豊永 育子（公益社団法人三重県バス協会）

都志見 耀代（市民公募）

田摩 雄一（保育所（園）保護者会連絡協議会会長）

勝木 祥文（名張商工会議所 総合商業部会長）

田中 明子（名張市地域環境部長）

（2）事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

（1）名張市地域公共交通会議報告及び平成29年度取組みについて

事務局より資料に基づき説明

<質疑応答、意見等>

（質問）観光に関しては遅れ気味の評価ということだが、どうか。

（回答）白とグレーの部分は、公共交通網形成計画の中でこれぐらいに取り組みを始めることとしているものである。観光については、確かに会議の中で観光に着目してなど、テーマとしては上がっているものの、観光客に対してどういうアプローチをするかといった議論には至っていなかったと判断したので、ここでは未取組みの評価としている。

（質問）平成29年度の重点項目として観光を入れるといったことも、この部会で決めればいいということか。

（回答）何に重点的に取り組んでいくかということはこの部会で決めていただきたいと

考えている。事務局からの提案としましては、前回の会議でもご意見のあった、目的別運行について、実際に目的別のバスを運行しているところもあるが、目線を変えてみると、既存の路線をこういう使い方ができるという使い方の提案でお買い物バスや通院バスとして使っていただけるということをしっかり周知啓発することで利用促進していくというやり方もあると思う。事務局としては、取組みの第一歩として、マイバスマップの作成がよいのではないかと考えている。

(意見) 分かりやすい表示や乗継情報の提供は、観光振興のための利用促進とほぼ同じと考えていいのではないかなと思う。

(回答) そういった視点を持ちながらバスマップを作っていけば、観光面での効果もあると思う。名張市では、観光協会と連携して、学生さんに旅行の企画をプレゼンしていただいて採用された企画を実現するという取組をしている。その中で、公共交通を利用する企画をテーマにするなど、観光との連携を図ることができると考えている。

(質問) 心のバリアフリーの醸成については、計画では平成29年度から実施していくことになっているが、事業計画には入っていない。どう実施していくのか。

(回答) これは、いつからというわけではなく、常に取り組まなければならないと考えている。本年度に実施してきた啓発イベントの中では、こういったテーマで周知、ポスター掲示などを行っていなかったのが、事務局としては実施していないという評価にしている。

(質問) バスを展示して見てもらうというだけでなく、実際にどういう風に乗るかというところに踏み込んでほしいと思う。あと、ICカードの導入検討という項目については、すでに三重交通ではICカードを使えるが、これはコミュニティバスについてのことか。

(回答) みどり号やコモコモ号は三重交通の車両を使用しており、車両にはICカードの機械も積んでいるにもかかわらず、システムの利用できないという現状にある。路線バスに限らずコミュニティバスについても使えるように検討を進めていきたい。

(意見) 三重交通の路線バスの車内では、三重交通独自のICカードはチャージできるが、他の交通系ICカードについてはチャージができない。そういったことが事前に分かるよう啓発を徹底するなど、利用者の目線にたった対応をしていただきたいと思う。

(意見) 乗る方のマナーとしてもそういうことを知っている必要もあり、また、利用してもらう側としても、せつかくの便利なICカードを活用してもらえよう啓発していくことも必要であると思う。

- (意見) 観光のことまですべてこの部会で考えていくのは難しいので、市の観光担当部署と連携していく必要があるのではないかと思います。
- (回答) これまで観光と公共交通との連携が不足していたので、今後、観光面でのニーズ調査等をしていく際には、公共交通利用に関する調査項目を付け足してもらうなど連携を図っていきたいと思う。また、先ほど言いました観光の企画旅行コンテストのテーマを公共交通利用にするなど、より連携を深めていきたいと考えている。
- (意見) 観光面でのバスマップを作るには、観光の目的、季節的な面など、観光のことも知らないと思う。
- (意見) 名張の観光振興については、車ではなく、関西等から公共交通利用で呼び込みたいと思うので、観光の部署の方にも、ぜひ公共交通を利用する企画をPRとしていただきたいと思う。一方で、名張駅で電車を降りると、西口に出たのか東口に出たのか、バス停がどこにあるのかも分かりにくい。本来であれば階段を降りたところから、百合が丘方面、名張市役所方面など、左右の案内があればいいと思う。
- (意見) 出張で全国各地に行きますが、事前にどこの何番乗場から乗るということを調べて行くようにしている。名張では、そういう情報がないのではないかと思います。都市部の小さな町ではそういう情報がないので、観光をターゲットにするのであれば、そういう表示をインターネットで公開するなどすれば、かなり便利になると思う。
- (意見) バスの系統ごとに色分けしてあったりすると、色を目安に進んでいけば、まず乗ることができると思う。普段自分が利用している駅であれば案内ももちろん見ないが、そういう目で降り立ってみれば、自分の利用している駅も不便なのかも知れない。
- (質問) 赤目四十八滝に行きたいという場合、赤目の駅にそういう看板があるのか。
- (回答) 地域の人々が、ボランティアでガイドセンターをやっている。バス停と待合があっただけのところを、地域の人たちが借り受けて観光シーズンの土日などに案内をしている。また、赤目溪谷保勝会と連携して、希望する方に赤目の歴史的な見どころをガイドするような観光戦略に取り組んでいる。
- (意見) 駅などに観光地のポスターなどがあれば、どんなところかも分かるし、赤目四十八滝に来た人が、次は曾爾高原に行ってみようとか、リピーターを増やすことができるかもしれない。
- (意見) 市の産業部が、隣接する宇陀市や津市と連携した広域的な観光戦略を考えているので、今いただいた意見を事務局から伝えていただきます。大阪などでいくらプロモーションしても、名張へ降り立った時に右へ行くのか左へ行くのか分からない

いということでは目的地にたどり着かないので、降りたところからの案内が大事だと思う。

(意見) この部会として検討できるのは、公共交通の表示、情報提供といった部分だと思います。行政的に見ていると、なかなか利用者目線のことには気が付きにくいのですが、皆さんの意見を聞いていると、普段当たり前に思っていることについて、気づかされることがあります。そういう意見をいろいろ言っていただくと、この部会では取り上げられなくても、市の担当部署につなぐことはできる。

(質問) 考えてみれば、いかに表示が少ないかということに気が付く。駅の階段を降りたところに分かりやすい表示があればよいと思うが、そういったことはどこに言えばいいのか。

(回答) 駅内なら近鉄です。近鉄も公共交通会議のメンバーに入っている。

(意見) バスの表示は駅構内にはあまりないと思うが、大きめの表示をするのであれば、占有料が必要になることも考えられる。

(意見) 初めて来たときに、分かりにくいというイメージを持たれてしまうと、次にもう来てもらえないと思う。

(意見) いろんな意見を聞いていますと、先ほどあったようなバスマップをはじめとして、バス停がどこにあるのかというような表示の整備に今後重点を置いていく必要があるのではないか。

(意見) 全体的なバス路線図を見たい。頭の中に路線図が浮かばない。

(意見) それがあればどこが欠けているか分かるので、会議も進みやすいのではないかと。

(回答) 市民向けのバス路線網図は準備していないが、そういうものがあれば分かりやすいと思う。実際はこれだけ運行されているということを知りませんが、かかる時間を考慮しなければ、市内の大半の場所へバスを乗り継いで行ける状態にある。よって、このネットワークを使ってどこへ行けるという、目的がはっきり分かるバスマップを作れば、もう少し利用促進につながるのではないかと考えている。

(意見) 駅前にも看板を設置していけばよいと思う。

(意見) スマートホンが普及しているので、今後紙媒体を配布していくという時代ではなくてくると思う。今までバスのことを考えたこともなかったが、東京の西武バスではバスの現在地が分かるシステムを導入しており、そういうシステムを導入すれば、バスが来ないのでタクシーを利用しようかといった判断はしやすい。そういう方向も視野に入れて検討していく必要がある。

(意見) ただ、それがなかなか一足飛びにはいかないのと、バスマップなどから地道に取り組んでいく必要がある。

(回答) 公共交通見える化事業に取り組んでおり、4月からはインターネットの主要な経路検索で見られるようになる予定である。

(意見) 今現在の高齢の方を対象にするのと同時に、これから高齢者になっていく人たちを対象にするのと2つの方向で進めていく必要がある。名張の特徴としては、全国平均に比べても高齢化が非常に速く進むが、一方で、スマートホンを使える高齢者も増えてくると考えられる。ただ、老いによって使えているものが使えなくなってきたときには、アナログが必要になる。

(意見) だからこそ表示というものが重要になる。しかも大きい字で。

(意見) 地図に路線を乗せるのではなく、分かりやすくデザイン化した路線マップが必要である。

(意見) 路線の再編を考えていくうえで、乗継のことを考慮すると、拠点となるようなところで路線を交差させて乗継の拠点とすることも検討していくべきである。

(質問) 三重交通主体でバスロケーションシステムを入れる予定はないのか。

(回答) 四日市や津では実施している。施設整備に相当の経費がかかるので、需要の高い地域からまず導入している。

(意見) データをとってバスの時間を調整し、渋滞を回避するというのがそもそものシステムの目的だったのが、一般利用者向けに活用されるようになった。15年ほど前からシステムはあるが、整備からメンテナンスまで相当な費用がかかるのでやめているところもある。都市部では普通に30～40分遅れてくることもあるが、名張市では都市部と比較するとたいしたことはないので、バスロケーションシステムまでは導入されないと思う。

(意見) 今後も継続して利用を促進していくというのであれば、そういったものを導入していく必要がある。

(質問) 乗客がどんどん増えてくるというのであれば必要だと思うが、どんどん減っていく現状ではどうか。

(回答) だから今、高齢者の運転免許自主返納が課題となる。高齢者の認知機能低下に伴う交通事故を減らしていこうと思えば、その人たちをターゲットとして公共交通利用へ取り込んでいかなければならない。返納された方が快適に暮らしていけるシステムを考えていくことが必要であり、移動手段を確保していくことは行政の責任であると思う。

(まとめ) バスマップを整備していくことに重点を置いておけば、観光面でのPRにもつながり、運転に不安のある高齢者にとっても免許返納者に対する意識づけになっていくと思う。事業推進部会の今後の取組としては、バスマップ作成と公共交通の表示の整備を重点的に行っていくこととする。

(2) 継続協議事項

- ・高齢者の免許証返納と公共交通の役割について
- ・目的別運行のあり方について
- ・公共交通利用者層の検討について

事務局より資料に基づき説明

<質疑応答、意見等>

- (意見) 十勝バスのバスマップは、余計な地図がないので分かりやすくてよい。あとは、所要時間などの情報を追加すればより分かりやすいのではないかな。
- (意見) 30分間隔で運行などの情報を入れればより分かりやすい。
- (意見) 名張でバスマップを作るのであれば、何に重点を置くかによって作り方が変わる。名張市はコンパクトシティとはいうものの、住居が分散しており、バスマップの作り方が難しいのではないかなと思う。
- (回答) 1つのパターンではなく、地域ごとに作っていくことが一番効果的であると考えている。目的地までの所要時間など、利用者の知りたい情報を足していくような工夫によって、意外と使えるということを周知していけば利用が増えてくると考える。
- (質問) 市役所の中でコミバスの情報を提供しているところはあるか。
- (回答) 市ホームページで各コミバスのバス停位置をグーグルマップ上で見られるようになっている。すべての公共交通網が分かるようなものは作っていない。
- (質問) 子どもの体験型バス企画を考えて、実際にイベントとして実施してはどうか。
- (回答) バス協会では、県内の小学校2年生の全員に、バスの乗り方を記載したクリアファイルを配布している。2年生の「生活」の授業の中で公共交通に親しもうというのがあって、できれば授業の中で実際にバスに乗る体験をしてもらいたいという希望を込めて配布している。
- (意見) 高齢者でも、バスの利用の仕方を知らない方もいるので、市内の名所めぐりなど、高齢者に対するバスの体験イベントを実施していく必要もあると思う。
- (意見) 一度この部会で、いくつかの班に分かれて目的地を決め、公共交通を利用して目的地へ行ってみるというのはどうでしょう。実際にそういう体験をしてみるとよって見えてくることもあると思う。
- (意見) バスマップで路線に進行方向の矢印が入っているのは分かりやすいと思う。バス

停もどちら側で待つのかなども分かる。地図上に全体的に路線が示されているものは、乗換えなどが分かりやすい。

(まとめ) 今後の取組としては、バスマップや分かりやすい表示の整備に重点的に取組むこととし、また、免許返納者に対する企画や目的別の運行についても検討を進めていくこととする。

4. その他

次回開催の日程は4月18日を予定